

平成十七年度鶴見大学仏教文化研究所公開シンポジウム・挨拶

著者	?澤 慧二
雑誌名	鶴見大学佛教文化研究所紀要
号	11
ページ	3-4
発行年	2006-04-08
URL	http://id.nii.ac.jp/1646/00000436/



挨拶

仏教文化研究所所長 柳澤 慧二

ただいま、矢島先生の方からこの会の趣旨についていろいろお話がございましたので、私が改めてご挨拶という必要もない感じですが、一言ご挨拶させていただきます。

本学学長は長らく高崎直道先生がおつとめくださっておられました。私がその後をおうけすることとなりました。しばらくは学長代行という形で、そしてこの三月からは学長ということで、鶴見大学の責任者になったわけでありませう。

仏教文化研究所の規定に、所長は学長がつとめるという一項がございましたので、自動的に私が仏教文化研究所の所長ということになったわけでございますけれども、高崎先生と違いました。私は医学の方の研究者でありまして、特に生理学の研究をやっておりました。もちろん生理学の中でも、私の先生である橋田邦彦先生は、戦争中文部大臣までされた方ですが、この先生は生理学の先生であると同時に仏教の方でも大変造詣の深い方でいらつしやいました。私の直接の先生であつた勝木保次先生という文化勲章を受けた方からも、仏教についていろいろお話をいただいたわけですから、私自身は不肖の弟子でございましたので、そういう意味で仏教文化研究所の所長は大変荷が重い役でして、今現在、一生懸命勉強しようという気持ちだけでございます。

本日、昨年のシンポジウムに引き続きまして、「曹洞宗教団の展開」ということで、下野山川の長林寺の事例を中心にシンポジウムを計画していただきましたので、私は皆さんにお集まりくださいという呼びかけ人ということ

で、その責を果たさせていただきます。

本日はせっかくの研究成果が発表されますので、皆様ご静聴のほどをお願い申し上げます、また機会がありましたら、活発なご討論をしていただければと思います。

本日はようこそお出でいただき、ありがとうございます。